

Q. 佐与谷の産廃処分場が許可された。審査過程で業者は市と協議したとあるが事実か

A. 平成25年4月に業者が環境課に来ている。説明を受けたが了解はしていない



ここを聞きました

- 総合計画と地域ビジョンについて
- 高梁市水道水源保護条例について
- 産廃処分場について

■産廃処分場について

宮田 佐与谷産廃最終処分場は、本年3月に岡山県の許可が下り、工事が進められている。私たちは飲料水や農業用水を守るため、岡山地裁へ産廃処分場建設禁止の仮処分を5月28日に申し立てた。

県と業者の事前協議では、業者に下流の住民や高梁市に説明・理解を求めるように指導され、業者の回答書は、高梁市と協議し理解が得られた。との記述があるが、これは事実か。

市長 平成25年4月18日に業者とコンサルタントが環境課を訪れている。産廃処分場計画の概要説明と質疑があったが了解はしていない。下流町内会の連絡先については回答していない。

■総合計画について

宮田 新庁舎や新図書館など市街地では、大型事業が進められている。他の地域では、置いてけぼりにされている感が強い。旧町のまちづくりを示した地域ビジョンはどうなっているのか。

市長 地域ビジョンは総合計画に基づき、旧町をどのように発展させるかを示している。一度に全てとはいかないが、できることから行っている。

宮田 ビジョン策定には、それぞれのまちづくり協議会が関わってきた。ビジョンの実現に向けて地域局やまちづくり協議会がどのように関わっていくのか。

石井聡美

ここを聞きました

- 市の観光施策について
- 市所有施設の有効活用について
- 空家等対策の推進に関する特別措置法への対処について
- ものづくりの拠点創出について

Q. 空き家や市の施設を活用して工房に

A. 定住対策のためにも進めていきたい

■空家対策特別措置法を活用し空き家の利用促進を

石井 空家対策特別措置法が施行されたが、高梁市ではこういった対策をとるのか。

市民生活部長 環境課に窓口を設けて、税務課、まちづくり課、定住対策課、建設課、警防課などとの横の体制をとったワーキンググループで具体的な対策を練り込んでいく。

石井 危険な空き家の除去と、空き家の活用という2つの側面があるのではないか。

市民生活部長 危険を含む空き家については喫緊の対応が必要なので前面に出ているが、定住対策へ向けての助成制度も充実させてきている。県内の空き家バンクの成立件数は、現在高梁市が一番多い。

■空き家や市の遊休施設を活用して移住者を支援する工房を

石井 空き家を買上げたり、市が所有して現在余り活用されていない建物などを工房として貸し出すことで、移住者を増やすきっかけになるのではないかと。

市長 高梁市へ来ていただいて新たに起業したり、店を出したいという方の支援は積極的にさせていきたい。空き家を活用してラボにするのは非常に有効な手段だと思っている。行政が行うというよりも商工会議所、商工会と一緒に進めるべきと思っている。

石井 ものづくりを希望する人を地域おこし協力隊として呼ぶことも検討してはどうか。

市長 そういう手法も考えていきたい。

Q. 国道313号の歩道改修について

A. 市としても、国・県に強く要望していく



ここを聞きました

- 今後の慰霊塔の維持管理について
- 自転車通学の安全確保について
- 残土処理場について
- 農工商一体の観光を考えると道の駅をつくってはどうか
- 農業振興について
- 災害の負担金について
- 一般質問のその後について

■自転車通学の安全確保について

大月 国道313号の落合橋から井谷あたりまでが危険である。市の考えを問う。

産業経済部長 歩道整備については部分的に進んでいるが、なかなか思うように進まないのが現状である。市としても国・県に強く要望し、今後も道路整備が一日も早く完了するよう、積極的に努力をする。

大月 改正道路交通法が6月1日より施行された市の考えは。

教育長 市では中学生714名中338名が自転車通学をしており、小学生も自転車に乗る機会があるので交通安全指導教室を徹底している。また、各学校、関係機関及び高梁警察署と連携し、登下校時に合わせて、改正ポイントを確認の上指導啓発に努力する。

■農業振興について

大月 元川上農高跡地にアグリテックノ矢崎が来ているが、地域との関わりや成果はどうか。

産業経済部長 事業委託の試験栽培うち、独自の技術による夏ホウレンソウの技術は確立している。その他新玉ネギまた花卉等はいまは元川上農業高等学校跡地に整備している。この施設を通じて地域の農業者と意見交換や交流を行える活性化の拠点としたい。さらに、ほ場を定期的に公開して栽培技術の普及促進につなげていくために矢崎と協議したいと考えている。

Q. 市街地の観光バス駐車場が不足していると思うが、今後どう考えるのか

A. 今後、市街地全体で検討していく



ここを聞きました

- 高梁市の観光振興事業について
- 河川の維持管理について
- 学校給食の地産地消について

■市の観光振興事業について

黒川 市街地の観光バス駐車場は、観光案内所の駐車場がなく、この敷地内にある飲食店への来客が困るのではないかと。他の駐車場を検討しているのか。

市長 絶対的な駐車場のスペースは不足していると認識している。今後、市街地全体で検討していく。

黒川 吹屋ふるさと村への観光客が道に迷われるケースが多く、何かよい策はないか問う。

市長 市内の観光案内標識を調査し、本年度予算で500万円を計上し見直しをしている。

■河川の維持管理について

黒川 一級河川については県が管理をしているが、しゅんせつ工事から発生した土砂処分については、

市がその場所を確保する必要があるがどのように取り組んでいるのか。

産業経済部長 市として事業化を予定している場所が4カ所あり、6万8000立方メートルの土砂を受け入れることができる。

黒川 県教委の調査によると他地域では県内産割合が過去最高とあったが高梁市はマイナスであった。そのことについてどう考えるか。

教育次長 食料別の割合で6月を予測すると、すでに60%を超えている。バラエティーに富んだ給食を提供するほど逆に県内産の率は下がる傾向にある。これとは別に重量ベースでは、7割を超えて県内産を使用している。